

2023 年度事業報告書

概要 (P1)

- 1 市民活動・NPO 支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる事業 (P2)
 - (1) 情報提供
 - (2) 相談・コンサルティング
 - (3) まちづくりサロン
 - (4) 講演会
 - (5) 明治ホールディングスお菓子寄贈 団体推薦
- 2 地域コミュニティ支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業 (P4)
 - (1) 情報提供
 - (2) 講座
 - (3) 相談・コンサルティング
- 3 協働推進 (P5)
 - (1) 行政との協働
 - (2) 企業・団体との協働
 - (3) 役員・職員が関わる委員会等
- 4 調査研究事業・政策提案 (P18)
 - (1) コラム発信
 - (2) 孤独・孤立対策への取り組み
- 5 災害ボランティアコーディネート事業 (P19)
 - (1) 「災害支援市民ネットワークしが」の運営
 - (2) 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度
 - (3) 滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会
- 6 ネットワークの構築 (P23)
 - (1) 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度
 - (2) 日本 NPO センターCEO 会議
 - (3) 中間支援センター意見交換会

7 会議等の開催（P24）

(1) 総会

(2) 理事会

概 要

2023年度は、世界的には引き続きロシアのウクライナ侵攻が続いている中、ハマスへの報復を理由としたイスラエルによるパレスチナへのジェノサイドが行われ、世界からの批判の声が上がっている。改めて平和構築、人権重視を考えさせられるきっかけとなり、個人としてこうした問題に何ができるかを問われた1年でもあった。

日本では、自民党の裏金問題がずっと尾を引き政治不信を増幅させる結果となった。少子化対策、能登半島地震への対応、政治資金のあり方など、今のままでよいのかと思わせるような政治状況が続くことへの不満は大きい。また、円安も一層進み、日本売りと思わせるような状況が続く中で、引き続き消費者物価の高騰もあり、少し賃金が上がったからといって、生活が良くならない不安を感じている人が多かった。

こうした内外の課題に対し、しがNPOセンターが直接的に働きかけることはなかなかできないが、民主主義の危機、日本のこれからを考える上での問題提起を、毎月のコラム発信や読書会を通じて行っている。こうした発信に加え、市民が自立的・自律的に動くことが必ず良い社会をつくるという思いを持ち、市民活動がその中心になって多様な活動を展開していくような支援をししがNPOセンターとして引き続き行ってきた。

総会後の講演会では、シチズンシップ共育企画代表・龍谷大学社会学部准教授である川中大輔さんから「市民活動の担い手が育つ地域と団体をつくるには」のテーマで話をしてもらい、活動を広げていくための担い手づくりへのヒントが得られた。

市民活動支援のベーシックな活動である相談事業は、しがNPOセンターで重要な位置付けをしており、設立当初から多岐にわたる内容の相談に応じてきた。コロナ禍で一気に利用が加速したオンラインはいろいろな場面での活用が定着化してきており、相談でも十分活用でき効果をあげられた。

草津市の協働のまちづくり推進支援委託業務は最終年度を迎え、引き続き協働ひろばの運営のアドバイスをを行うとともに、ラウンドテーブル・市民活動交流会の企画し実施した。市やコミュニティ事業団への引き継ぎもスムーズにいき、次年度以降の草津の動きを楽しみに待ちたい。

滋賀県子ども・青少年局が取り組む「協働で取り組む子ども・若者まんなか活動助成事業」の支援業務のプロポーザルに手を上げて受託した。久しぶりの県の委託事業となったが、さまざまな問題が露呈した。この事業を受けたこともあり、9月に知事と面談をして、市民活動団体(NPO)が多様な活動を展開することで社会が豊かになるという視点から「孤独・孤立対策」「子ども・若者対策」「協働推進」の3点について提案して理解してもらったが、残念ながらそれが予算化には結びついていない。

企業・団体との協働関係では、引き続き、平和堂財団の環境保全助成金事業「夏原グラント」、生活協同組合コープしがとの「できるコトづくり制度」に取り組んだ。大和リース(株)との協働事業である「まちづくりスポット大津」は、NPO法人まちづくりスポット大津のアドバイザーとしてサポートした。「夏原グラント」は、滋賀県・京都府の環境保全等の市民活動団体の活動を支える役割を果たしている。民間の助成金規模としては滋賀県では突出している。個別コンサルティング、訪問レポートを専用サイトに掲載することでの情報公開などにも対応した。継続希望団体へのヒアリング、相談会の実施、団体の組織運営サポートなどにも積極的に取り組んだ。「できるコトづくり制度」はコープしがが主宰し、さまざまな「想い」や「願い」を持った個人や団体が新たな一歩を踏み出すための学習の場の提供と、それらを実現させるために必要な資金の助成の二本立てとなっている。講座はオンラインと会場での開催、助成金説明会・相談会もオンライン併用で行うとともに、団体の訪問レポートを専用サイトに掲載することでの情報公開などにも対応した。

「災害ボランティアコーディネート事業」では、しがNPOセンターが事務局を担っている「災害支援市民ネットワークしが」の研究会を、近畿ろうきんのNPOパートナーシップ制度の活用により4回実施した。

孤独・孤立対策活動に関しては、日本NPOセンターCEO会議で議論されてきた経緯を踏まえ、内閣官房孤独・孤立対策担当室が所管するモデル事業に、関西6団体のコンソーシアムで応募し採択され、実施した。

1 市民活動・NPO 支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる事業

(1) 情報提供

ホームページ、フェイスブック、X（旧ツイッター）などで、NPO 支援のための情報や NPO コラムを発信した。

会員に向けては、メールの一斉送信などで情報提供を行った。

(2) 相談・コンサルティング

① 相談業務

2023 年度は有料相談は 2 件で、法人設立と団体の組織運営についてであった。

引き続き委託業務内での相談も多く、丁寧に対応した。

(3) まちづくりサロン

「新書 de 読書会」

2023 年度も毎月第 3 月曜日（祝日の場合は前後で設定）を基本に定例開催した。2016 年度から始めて、2024 年 3 月の開催で 89 回を数えた。参加者が安定的になってきていることもあるが、新たな参加をうながし、多様なテーマや多彩な話題提供者による読書会を展開していきたい。

① 2023 年 4 月 10 日（月）19：00～20：30

課題本：長期腐敗体制 著者：白井聡 出版社：角川新書

② 2023 年 5 月 15 日（月）19：00～20：30

課題本：政治責任 民主主義とのつき合い方 著者：鶴飼健史 出版：岩波新書

③ 2023 年 6 月 19 日（月）19：00～20：30

課題本：未来倫理 著者：戸谷洋志 出版：集英社新書

④ 2023 年 7 月 24 日（月）19：00～20：30

課題本：ゼロからの資本論 著者：斎藤幸平 出版：NHK 出版新書

⑤ 2023 年 8 月 28 日（月）19:00～20:30

課題本：この政界の問い方 普遍的な正義と資本主義の行方 著者：大澤真幸
出版：朝日新聞出版

⑥ 2023 年 9 月 25 日（月）19:00～20:30

課題本：主権者を疑う—統治の主役は誰なのか 著者：駒村圭吾 出版：ちくま新書

⑦ 2023 年 10 月 16 日（月）19:00～20:30

課題本：はじめてのスピノザ 著者：国分功一郎 出版：講談社新書

⑧ 2023 年 11 月 29 日（月）19:00～20:30

課題本：日本ってどんな国？ 著者：本田由紀 出版：ちくまプリマー新書

⑨ 2023 年 12 月 18 日（月）19:00～20:30

課題本：世界はなぜ地獄になるのか 著者：橋玲 出版：小学館新書

⑩ 2024 年 1 月 16 日（月）19:00～20:30

課題本：会社の中の「仕事」社会の中の「仕事」 編者：阿部真大 出版：光文社新書

⑪2024年2月19日（月）19:00～20:30

課題本：女ことばってなんなのかしら「性別の美学の日本語」 著者：平野卿子

出版：河出新書

⑫2024年3月18日（月）19:00～20:30

課題本：集団に流されず個人として生きるには 著者：森達也 出版：ちくまプリマー新書

(4) 講演会

総会終了後、講演会を開催した。

市民活動に限らず地域コミュニティなど、多くの団体にとって後継者や活動を共にする人材不足が大きな課題であると耳にすることが多い。しかしこのような悩みに対して、社会状況や人々の活動に対する思いなどを読み取りながら、解決のヒントやアイデアなどが聞ける機会は少ない。そこで龍谷大学社会学部准教授の川中大輔さんをお呼びし、ご自身の活動の中から得てきたことや学生とともに活動する中から、特に若い世代と共に活動するためのポイントなどを伺った。そのためには地域や団体がどのようにアップデートしていけばよいかについても丁寧に教示いただいた。

日時：2023年5月27日（土）15:00～17:00

講師：川中大輔 龍谷大学社会学部准教授・シチズンシップ共育企画代表

参加者：23名

(5) 明治ホールディングスお菓子寄贈 団体推薦

明治ホールディングスおよび同株主より社会貢献活動の一環として、明治グループの製品（お菓子）の寄贈が、日本NPOセンターが事務局を担い全国約300か所で行われている。日本NPOセンターから各都道府県の間接支援センターへ、お菓子寄贈にふさわしい対象団体の推薦依頼があり、それに対応した。対象団体は「(1) 障がいのある子どもを対象とした活動を行っている団体」「(2) 自然災害の被災地支援活動をしている団体（子どもを含む地域住民支援）」「(3) 自然災害の広域避難者を支援している団体（子どもを含む地域住民支援）」「(4) 東日本大震災の被災地支援、広域避難者支援をしている団体（子どもを含む地域住民支援）」となっており、滋賀県から3団体を推薦した。

2 地域コミュニティ支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業

(1) 情報提供

地域コミュニティ、特にまちづくり協議会に対する中間支援に必要なメニューをとりまとめ、今後の相談対応時のコンテンツとして使えるようにしている。必要に応じて情報が提供できる体制にある。

(2) 講座

地域コミュニティ、特にまちづくり協議会に会関する基礎講座を「まちづくりスポット大津」に依頼されて行った。内容は、地域コミュニティを支える組織（自治会・自治連合会・地域自治組織）についての役割や、特色ある取り組み、先進事例について。

『地域コミュニティと地域自治組織』 講師：仲野優子・坂下靖子（高島事例報告）

(3) 相談・コンサルティング

大津市のまち協中間支援（本年度より大津市民活動センターが担う）へのサポート

3 協働推進

(1) 行政との協働

① 草津市協働のまちづくり推進支援業務（受託事業）

i 協働推進サポート業務

協働のまちづくりを推進するために、まちづくり協議会および市民公益活動団体の動向を見据え、協働事業の展開および市民公益活動のさらなる環境整備に向け、専門的な助言を行った。

- ・市民参加・協働のまちづくり推進評価委員会運営への助言、およびヒアリング調査など、協働の進め方についての展開手法の提案やサポート支援を行った。
- ・市民公益活動団体やまちづくり協議会、中間支援組織からの相談対応を行った。

ii ラウンドテーブルの企画、運営及び協働事業創出に向けてのコーディネート

市民総合交流センターで実施する、ラウンドテーブルを企画運営し、多くの市民公益活動団体の参加を促すとともに、協働事業創出の道筋のコーディネートを行った。

- ・ラウンドテーブルの企画・運営を行った（7回）。
- ・ラウンドテーブル運営会（世話人会）を開催した（6回）。
- ・ラウンドテーブルの運営実施及び結果の報告としてニュースを作成した（7回）。
- ・ラウンドテーブルへの参加を進めることに加えて、マッチングテーブル（Step3）の場で、各団体・草津市の各部局とのコーディネートのサポートを行った（マッチングテーブルは1件3回）。

iii 交流会の開催業務

キラリエサポーター・まちづくり協議会などを中心とした市民活動団体の交流会の企画・運営を行った。

- ・交流会の企画を、市・事業団とおこない、役割分担をして開催した。
- ・講師・事例報告者との事前連絡、事前打ち合わせを行った。
- ・各団体・各部局・各公共施設と連絡をとりあいながら、チラシを広範に配布し、交流会を実施できた。

講話 「地域まちづくり協議会の持続的な発展に向けて」

講師 コミュニティ政策学会理事 辻上浩司さん

事例報告 「ワクワクおいかみチャレンジ」 老上学区まちづくり協議会

「玉川学区 酒味湯の会の取り組み」 遺跡と菘の育む玉川まちづくり推進会議

エリア別交流 中学校区に分かれて、地域まち協と市民活動団体などの情報交換を行った。

iv 「協働ひろば」の運営サポート業務

市民総合交流センター内の「協働ひろば」運用にあたっては、実質的にコミュニティ事業団に移行させたが、協力しながら環境整備を行い多くの団体に利用してもらえるようにした。

- ・「協働ひろば」の環境づくり 運用のルールづくりのサポートを行った。
- ・市民総合交流センターや「協働ひろば」での協働のためのコーディネート業務を随時行った。

来訪者への声かけ、まちづくり資料の説明など。市民総合交流センター内の「協働ひろば」運用に当たって、コミュニティ事業団と協力しながら環境整備を行い、多くの団体に利用してもらえるようにした。

②協働で進める子ども・若者まんなか活動助成事業支援業務（受託事業）

滋賀県子ども・青少年局が「協働で進める子ども・若者まんなか活動助成事業費補助金」を実施するに当たり、その採択団体が円滑かつ効率的に事業実施するため伴走支援を行い、団体としてのスキルアップや団体間連携による新たな活動創出の機会づくりなど民間活動の育成を図るため、支援業務に関して公開プロポーザルが実施され、しがNPOセンターが受託者として採択され、次の業務を実施した。

i 説明会・相談会の開催

補助事業に対する説明会・相談会チラシを作成し広報するとともに、説明会・相談会を2回、オンライン相談会を1回実施した。

草津会場 7月5日（水）参加者 20団体（25人） 相談 9団体
彦根会場 7月9日（日）参加者 15団体（24人） 相談 8団体
オンライン 7月10日（月）参加者 32団体（36人）

ii 補助金応募受付

7月末までの募集期間中、しがNPOセンターが応募書の受付を行い、内容を確認したものから県へ送付した。

応募受付数 56団体

iii 審査会の開催運営

ア 資格審査の実施

プレゼンテーションに進む団体の書類審査を行い、各団体に通知した。

プレゼンテーション参加団体 26団体

イ 審査会の実施

2024年8月25日にプレゼンテーション及び審査会を開催した。

審査委員 神部純一 さん 滋賀大学教育学部教授
田口真太郎 さん 成安造形大学助教
谷口郁美 さん 滋賀県社会福祉協議会副会長
南圭子 さん 淡海ネットワークセンター常務理事・事務局長
秦哲也 さん 滋賀県健康医療福祉部子ども未来戦略室室長

採択団体は次の通り。

団体名	所在地	団体サポート担当
甲南会	甲賀市	しがNPOセンター
蜜柑の木	近江八幡市	しがNPOセンター
こどもの居場所ひがえど	東近江市	しがNPOセンター
コレジオ・サンタナ	愛荘町	まちづくりネット東近江
くさつ未来プロジェクト	草津市	草津市コミュニティ事業団
SHIGA CITY	大津市	しがNPOセンター
クレオテック	草津市	しがNPOセンター
Atlas	守山市	碧いびわ湖
香こち-kokoshi-	大津市	しがNPOセンター
ききいろは	大津市	しがNPOセンター
BIWAKO SPORTS CLUB	大津市	コミュニティねっとわーく高島

がもう夢工房	東近江市	まちづくりネット東近江
まちのコミュニティハブ ツナグ	草津市	草津市コミュニティ事業団
フリースクールシャローム学園	大津市	まちづくりスポット大津
湖南少年eスポーツクラブ	湖南市	しがNPOセンター
逢坂 Smile door 子ども食堂	大津市	まちづくりスポット大津
ぱれっとしが	日野町	碧いびわ湖
GIRAFFE	彦根市	しがNPOセンター
滋賀県青年会館	大津市	しがNPOセンター

iv 団体サポート

ア 伴走支援

採択団体 19 団体（10 月 6 日決定 15 団体、12 月 1 日決定 1 団体、1 月 1 日決定 4 団体）に対し、協力団体の協力を得て、伴走支援を行った。

イ 協力団体

公益財団法人草津市コミュニティ事業団、NPO 法人まちづくりネット東近江、NPO 法人碧いびわ湖、NPO 法人コミュニティねっとわーく高島、NPO 法人まちづくりスポット大津の 5 団体に協力を要請して、伴走支援を行ってもらった。

ウ オリエンテーションの実施

15 団体を対象に、10 月 12 日オリエンテーションを実施した。追加決定された団体には、11 月 28 日に 1 団体、1 月 9 日 1 団体、10 日 1 団体、12 日 1 団体、13 日 1 団体にそれぞれオリエンテーションを実施した。

エ 事業実績報告書書き方講座の実施

事業実績報告書がスムーズに作成できるように、1 月 26 日に講座を開催した。

オ 交付申請書、概算払い請求書、事業実績報告書作成支援

交付申請書、概算払い請求書、事業実績報告書の内容を確認して県へ送付した。

v 交流会の開催

協働で進める子ども・若者まんなか活動の助成を受けている団体が集まり、意見交換、情報交換を行うことで、活動の更なる発展を目指すとともに、ネットワークを広げることで今後の活動へのヒントを得てもらうことを目的として団体交流会を開催した。

1 回目 2024 年 1 月 10 日（水）13:30～16:30 近江八幡商工会議所大ホール

ゲスト 幸重忠孝さん NPO 法人こどもソーシャルワークセンター

2 回目 2024 年 1 月 20 日（土）13:30～16:30 滋賀県立県民交流センター203

ゲスト 山田貴子さん NPO 法人子どもネットワークセンター天気村

vi 報告会の開催

協働で進める子ども・若者まんなか活動の助成を受けている団体の成果報告会を広く県民に公開して実施した。

1 回目 2024 年 3 月 19 日（火）13:30～16:30 近江八幡商工会議所大ホール

報告団体 7 団体

報告団体 12団体

vii 広報

ア ニュースレターの作成配布

ニュースレターを4回(1号~4号)作成し配布した。

イ ホームページで活動内容を広報

各団体の事業実施状況取材し、ホームページに掲載した。

viii 総括

補助を受けて事業に取り組んでいただいた団体は、いずれも真面目に熱心に取り組んでいただいた。しかし、補助事業が国の交付金を受けて実施されたことで、当初の補助金交付要綱どおりの運用ができなかったこと、フリースクール支援についての県の考え方が定まっていないこと、事業実施期間が短かったことなどで補助を受けた団体への迷惑がかかり、県がこうした課題に対して前向きな対応をせず、1年限りの事業で終わってしまったことは非常に残念である。

(2) 企業・団体との協働

① 平和堂財団 環境保全活動助成事業「夏原グラント」(受託事業)

新型コロナウイルス感染症の位置づけが2023年5月8日から5類感染症となり、制限が緩和されたことで、団体の活動が活発に展開していると感じられる1年であった。運営面では、贈呈式、講座、交流会などの開催に当たって対面での実施や人数制限の枠を大きくするなど、目的に沿った運営ができるようになった。会場とオンラインでの実施には、それぞれ一長一短があり、実施に当たりどの手法がふさわしいかがわかるようになってきている。今後もそれぞれの目的に合った開催方法を選んでいきたい。

夏原グラントの運営事務局をNPO法人まちづくりスポット大津へ移行に向けた取り組みを進めているが、2023年度は、より情報共有が図れるように努めた。実務としては事業報告書のチェック作業、活動報告書の作成、募集要項の作成、活動訪問の取材・記事作成・HPへの掲載、プレゼンテーション・選考委員会の進行補助などである。少しずつ量を増やし、補助ではなく主力として動けるような支援をしていきたい。

i 助成団体

・一般助成1年目	17団体	助成金総額	6,448,000円
・一般助成2年目	14団体	助成金総額	5,230,000円
・一般助成3年目	14団体	助成金総額	4,775,000円
・ファーストステップ助成1年目	15団体	助成金総額	1,460,000円
・ファーストステップ助成2年目	8団体	助成金総額	800,000円
	計	69団体	18,813,000円

2023年度助成金対象団体については2022年度中に選考委員会を実施している。

選考委員会は一般1年目1次選考のみ非公開の書類選考で2次選考に進む団体を決定、一般1年目2次・一般2年目はプレゼンテーションと選考委員会、一般3年目は個別ヒアリングを行い取りまとめた結果を選考委員会で報告、ステップアップ助成1年目は書類審査で採否を決定した。ファーストステップ助成は1年目・2年目ともに、書類確認の上、採否を決定した。ステップアップ助成は2022年度は1

年目団体の採択はなかったが、2023年度も3団体からの応募があったものの、選考基準に照らし合わせて選考を行った結果、採択となる団体はなかった。これで2年連続でステップアップ助成の採択がなく、2023年度はステップアップ助成団体がゼロとなった。

2023年度の助成金対象団体数と助成額は以下のとおりである。

<一般1年目>

団体名	事業名	助成金額
フロンティア協会	環境保全（竹林整備）の持続可能な視点をどうつくるか。	380,000
朽木野鳥を守る会	朽木野鳥を守る会	410,000
海浜植物守りたい	絶滅危惧種・希少種に指定されている野生植物の保護・保全活動	80,000
高取チェンソーCLUB	森林環境保全と木材利用推進の普及啓発事業	400,000
伊吹くらしのやくそう倶楽部	「伊吹の薬草」を未来につなぐ～仕組みづくりの挑戦～	400,000
上宮津・杉山エコガイドの会	里山整備に関わる次世代スタッフ育成（里山であそぼう会）	350,000
源氏藤袴会	京都自生の絶滅寸前種の保全育成を推進する	400,000
天引区の活性化と未来を考える会	希少生物の棲む石積み水路の補修と林産物の有効活用を目指す炭焼き事業の推進	500,000
東近江さとやま Nannies	東近江里山保育推進と里山保全学習事業	500,000
ふるさと保津	有機栽培農業塾	298,000
ブルーシー阿蘇	生ごみ処理機の改善	350,000
小森クラブ	自然満喫！野外でとことん遊ぼう！！	390,000
まるやまの自然と文化を守る会	ヨシの活用によるヨシ原の保全	350,000
淡海淡水生物研究所	小さなびわ湖水族館オサカナラボ運営と河川環境への働きかけ	500,000
亀岡人と自然のネットワーク	里山の恵み、長尾山の生物多様性を感じよう！	420,000
碧いびわ湖	琵琶湖辺の田園地域にて脱炭素型の暮らしの実践（環境再生型農業とCSA）	350,000

<一般2年目>

団体名	事業名	助成金額
東草野炭焼き文化保存会	山の手入れと地元の紹介イベントを通じた地域環境の活性化	350,000
吉田山の里山を再生する会	吉田山の自然環境を保全・整備し人々が集い楽しめる里山に再生する事業	500,000
コナラ会	けいはんな記念公園における里山管理事業	400,000
京都発・竹・流域環境ネット	竹林の整備による放置竹林の発生防止と景観保全	450,000
結いの里・椋川	環境学習・環境保全活動支援のための「高島の田んぼの生きもの図鑑」の作成と活用	244,000
スモールファーマーズ	持続可能な集落棚田のための環境保全型ネオ・スモールファーマー発掘プロジェクト	500,000
西の湖自然楽校	西の湖自然楽校	400,000
京都市環境保全活動推進協会	「わきの山」における持続可能な里山利用にむけたゾーニングの検討及び実施	350,000

地球とあそびみつきち	地球とあそびみつきち	250,000
林業女子会@京都（花背支部）	花背の森ガタリ～土地に根ざした学びの場	350,000
オーガニック土の塾	遊んで学ぼう 里山東笠取	250,000
みどりの会伏見桃山	森の保全及び公園の清掃活動	386,000
未来生物学研究所	滋賀県の河川・湖沼等の環境保全及び環境問題の解決を目的とした最新科学技術の活用と地域環境問題解決	300,000
雲ヶ畑・足谷 人と自然の会	ポタン科ポタン属ヤマシャクヤクの保全	500,000

<一般3年目>

団体名	事業名	助成金額
レイカディアえにしの会	芦浦観音寺竹林整備プロジェクト	110,000
下阪本子どもコミュニティ	下阪本クリーン作戦&シジミ放流	400,000
西山自然保護ネットワーク	小塩山カタクリ保護地へのイノシシ侵入防止対策	370,000
志賀郷ゴキゲン化計画	小さな谷の小さな暮らしー自然とつながり生きる力を育むワークショップ	500,000
加茂女	里山からワサビ畑の復活をめざす	400,000
チームむべなるかな	琵琶湖水鳥観察会とむべなるかな里山探索会	300,000
オランダ堰堤および周辺の環境を守る会	ミツバチ花いっぱいプロジェクト	400,000
こにゃん木の駅プロジェクト準備委員会	湖南市産バイオマス燃料製造プロジェクト	250,000
自然観察指導員京都連絡会	特定外来種のオオハンゴンソウ駆除で美しい花背の自然と生態系を守る	500,000
森のようちえん だろんこ園	森のがっこう 2023	400,000
比良雪稜会	比良山系の清掃登山（クリーンハイク）及び飲み水水質調査と放射線測定	65,000
TANAKAMI こども環境クラブ	山を守る ごみ拾い調査とその解決法を探る	280,000
国際ボランティア学生協会	大学生の熱意で琵琶湖や鴨川を侵略的外来種から守ろう	400,000
宇治きこりの会	市民が楽しめる 豊かで元気な 森育て をすすめよう！	400,000

<ファーストステップ1年目>

団体名	事業名	助成金額
神田山を守り育てる会	わが里山・神田山を守り育てる事業	100,000
たかしま湖岸景観整備機構	琵琶湖の景観整備	100,000
室橋コウノトリを育む会	野性動植物の保護・保全や生物多様性維持の活動	100,000
京都出雲阿国顕彰会	藤袴の育成と「第2回出雲阿国・藤袴祭」の開催	100,000
篠原シニアネット	美化活動（街の美化活動）作業	60,000
きょうのあそびば	一日プレーパーク体験	100,000
たむたむ畑	結作業の復活による琵琶湖流域の環境保全プロジェクト	100,000
里山みんなの未来くらぶ	里山の自然環境と文化を守るプロジェクト～みんなで米作り！～	100,000

わくわくミライラボ	「里地」と「湖」のめぐみ・つながり実感プロジェクト	100,000
草津おみやげラボ	地図でつながるデジタルキッズ～自然体験をwebアプリ「くさつお宝マップ」で発信～	100,000
フロリ田	里山メンテナンスくらぶ	100,000
森へのパスポート（森パス実行委員会）	北山・野掛け～森へのパスポート～	100,000
鳥亮庵	水尾の暮らし体験授業	100,000
甲賀ナイスローカルカンパニー	柿泥棒プロジェクト	100,000

<ファーストステップ2年目>

団体名	事業名	助成金額
21 くらやま塾	21 くらやま塾活動	100,000
今郷棚田集落協定	今郷棚田における自然環境の保護・保全活動	100,000
大宮の森 もぐらの会	森と遊ぼう！大宮 Lab	100,000
SYK 重利夢工房	里山保全と環境美化	100,000
FootRoots	びわ湖発のプラスチックリサイクルによる活動	100,000
藪の竹ぼうき	バンブードームを作って竹工作を楽しもう！	100,000
あおむしくらぶ	大人も子どもも楽しく学べる『川の生き物探索隊』	100,000
もりのもり	土倉の巨木林保全活用事業	100,000

ii 贈呈式

一般助成団体を対象に、2023 年度も出席者を 1 団体 1 人に限定して開催した。平和堂財団理事長から目録が贈呈され、その後は 2023 年度の活動の中から 3 団体による活動報告を行った。贈呈式終了後の交流パーティは、コロナ感染症拡大防止のために 3 年間開催を見合わせてきたが、今年度は着席で実施した。自由な交流とまではいかないが、活発な意見交換が行われた。

2023 年 4 月 16 日（日）10:00～14:00

クサツエストピアホテル 瑞祥の間

iii 市民環境講座

環境保全活動を進めていくための専門的な知識や組織運営について学ぶ場として市民環境講座を開催した。選考委員に講師を依頼した。一般 1 年目とファーストステップ 1 年目の採択団体は、出席を必須とした。

第 1 回 2023 年 6 月 17 日（土）14:00～16:00 参加者：48 名

草津市立市民市民交流プラザ大会議室

「多様な生き物に生かされている私たちの責任」

講師：仁連孝昭さん

第 2 回 2023 年 7 月 30 日（日）14:00～16:00 参加者：39 名

滋賀県立県民交流センター207

「活動を楽しみ続けたいために」

講師：脇田健一さん

iv ファーストステップ1年目団体オリエンテーション

ファーストステップ団体は贈呈式に参加しないことから、夏原グラントの全体スケジュールや活動開始に当たっての注意点、事務手続きの方法などについて伝える場としてオンラインで実施した。オリエンテーションが実施されないと、お互いの顔を知らずに進めることになってしまうので、重要な機会となっている。今年度は採択団体が多かったので、2回に分けて実施した。

2023年4月24日（月）10：00～10：30・19：00～19：30

v ファーストステップ団体ヒアリング

ファーストステップ助成では、終了後に一般助成へ応募することを必須としている。4月からの活動状況を確認しながら、次年度どのように対応していくかについて個別のヒアリングを、1年目団体と2年目団体に分けて、全団体対象に実施した。会場参加を基本としつつ、日程調整が難しい団体はオンラインでの対応とした。

1年目団体：2023年11月10日（金）9：30～17：00

草津市立市民総合交流センター 204

2年目団体：2023年11月11日（土）9：30～17：00

草津市立市民総合交流センター 205・オンライン

vi ステップアップ講座

一般助成は3年まで継続が可能となっているが、組織基盤強化に取り組む団体に対して3年目終了後に、ステップアップ助成の枠組みがある。ステップアップ助成では環境保全活動と組織基盤強化を同時に取り組むことになるが、この組織基盤強化策をどのように構築するか、それを応募書類にどのように書きこむかなどについて説明し、事業企画の相談に応じるステップアップ講座を開催した。ステップアップ助成の説明と組織基盤強化の考え方についての講話、それぞれの団体の個別ワークを実施した。参加団体によって課題が異なるため、スタッフが個別に相談対応した。

2023年10月28日（土）13：30～16：00

滋賀県立県民交流センター 301 参加：6団体

vii 活動訪問

一般助成1年目団体の活動現場を訪問し、取材を行った。訪問して作成した記事を写真とともにホームページサイトに掲載して情報発信した。この訪問を通じて団体との関係性が構築できるとともに、活動内容だけではない情報も収集でき、以降の相談対応等に活かすことができている。また、平和堂財団が積極的に同行され、団体にとってはこの機会に色々伝えようという意欲が高まったようである。

日程が合わずに訪問できなかった1団体の訪問は次年度に持ち越すこととした。

訪問団体数 16団体

viii 活動報告書

団体の活動内容を取りまとめた報告書として、A4サイズで1000部作成。1事業あたりA4サイズの1/3スペースで、一般助成採択団体のすべての事業を掲載している。広報ツールとして応募を検討している団体などへの情報提供用として積極的に配布した。

ix 説明会・相談会

夏原グラントへの応募を考えている団体を対象に、募集要項作成後に2024年度応募のための説明会を実施した。説明会終了後には相談会を設定し、応募についての質問や相談に応じた。ファーストステップ団体には、相談会への参加を積極的に呼びかけた。昨年度に引き続きオンライン相談会を実施

したが一定の申し込みがあり、定着してきたていることが実感できた。会場参加との併用を今後も続けていきたい。

- ・ 大津会場 2023年11月25日(土) 参加:1団体
- ・ 京都会場 2023年11月30日(木) 参加:3団体
- ・ 草津会場 2023年12月4日(月) 参加:2団体
- ・ 彦根会場 2023年12月7日(木) 参加:7団体
- ・ 南丹会場 2023年12月10日(日) 参加:7団体
- ・ オンライン 計5団体

x 専用ホームページサイトの運営

団体訪問の取材記事、講座や助成金情報を掲載して広報を行った。特に取材記事の掲載では、一般助成1年目団体の活動の場を実際に訪問することで、計画書だけではわからない内容や団体の様子を垣間見ることができ、今後の総団体などに活かせることが多い。取材した内容を記事としてまとめ写真とともに専用ホームページサイトに掲載した。この取材記事を参考に応募書類を作成したという話も聞き、有用な情報発信となっている。

xi 2024年度助成にかかる準備

2024年度に活動の対象となる助成事業の応募から選考にかかる一連の業務について、2023年度内に準備を進めた。ixの説明会・相談会も、その一環である。具体的には要項の作成、説明会・相談会の開催、個別相談対応、応募受付、団体ヒアリングの実施、選考委員会・公開プレゼンテーションの運営などを行った。

選考会・公開プレゼンテーションの日程は次の通り。

一般助成1年目

1次選考(書類選考):2024年2月27日(火)10:00~12:00

2次選考(プレゼンテーション・選考委員会):2024年3月30日(土)9:30~17:00

一般助成2年目

プレゼンテーション・選考委員会:2024年3月17日(土)9:30~16:30

団体ヒアリング日程は次の通り。

一般助成3年目団体対象:2024年2月22日(木)10:00~16:30

2024年2月23日(金・祝)10:00~14:30

応募団体数・採択団体数は次の通り(団体数は「応募」「採択」の順で記載)

一般助成:1年目 32団体・14団体、2年目 15団体・15団体、3年目 12団体・12団体

ステップアップ助成:1年目 4団体・1団体

ファーストステップ助成:1年目 21団体・9年目、2年目 14団体・14団体

②生活協同組合コープしが できるコトづくり制度(受託事業)

一人ひとりが持つ「想い」や「願い」が結びつき、誰もが安心して暮らし続けることができる地域社会を実現していくための支援として創設された「できるコトづくり制度」の運営事務局を引き続き担った。

講座は会場とオンラインでの開催が定着してきており、オンライン参加者が多かった。オンライン運営については手法が安定してきたこともあり、充実したものとなっている。講座メニューとして、活動の継続性に資する内容のものを追加し、全体で5つのテーマ会場・オンラインを合わせて8回開催した。

活動訪問とレポート作成・専用ホームページサイトへの公開、ホームページサイトの運営などについては引き続き実施し、2024年度に向けた助成金の募集・審査会運営、説明会、団体からの相談対応などを行った。

i 2023年度採択団体

- ・はじめて助成 1年目 5団体
2年目 4団体 助成金総額 897,000円
 - ・活動助成 1年目 3団体
2年目 3団体
3年目 2団体
助成金総額 2,350,000円
- 計 17団体 3,247,000円

2023年度の助成金対象団体数と助成総額は以下のとおりである。

<はじめて助成>

1年目

団体名	事業名	助成額
長浜市神田地区自主防災会	安全安心のまちづくり	100,000
湖城が丘サロン	地域高齢者交流支援	100,000
手話カフェ Pocky	聴導犬啓発プロジェクト	97,000
こどもの居場所 ばあちゃんち	学校にいきづらい子どもの居場所づくり	100,000
Birth For the Future@しが	BFF@しが #女性が望む継続ケア #選べるお産 SHIGA #安心できる出産体験	100,000

2年目

団体名	事業名	助成額
フードバンクまいばら	フードバンク	100,000
リボンカフェ (RIBBONCAFÉ)	bc-life セルフチェックキャラバン	100,000
Petit Refrain	プチ・ルフラン=小さな循環	100,000
くぬぎの森自然遊び広場&山の暮らし学校	くぬぎの森自然遊び広場&山の暮らし学校	100,000

<活動助成>

1年目

団体名	事業名	助成額
共生のまち演劇プロジェクト実行委員会	共生のまち演劇プロジェクト	250,000
くらすむ滋賀	街道文化を百年先の世代へつなぐ 目川立場復活プロジェクト	300,000
地域とアートプロジェクト実行委員会	堅田*はまさんぽ アートプロジェクト 2023	300,000

2年目

団体名	事業名	助成額
彦根にほんご教師会	子どもにほんご教室 JUMP	300,000

みんなのもうひとつのおうち「キュルア」	学校に行きづらい子ども達とご家族の居場所づくり	300,000
食物アレルギー対応子ども食堂 スマイルシード	ネットシステムを利用して食物アレルギー親子の食育及びメニュー開発支援活動	300,000

3年目

団体名	事業名	助成額
若者自立支援ボランティアGroup居場所の会「レリーフ」	社会参加を模索する若者への支援活動	300,000
地球ハートヴィレッジ	地球を愛する衣食住DIY生きる学び塾	300,000

ii スタート集会

前年度までは、スタート集会で全体スケジュールや活動を始めるにあたっての注意点などについて説明していた。しかし今年度はスタート集会が事業開始から1カ月半ほどあることから、この説明をオリエンテーションとしてオンラインで、はじめて助成1年目・活動1年目団体を対象に行った。

スタート集会は各団体から団体の自己紹介と取り組む活動について紹介をしてもらった。その後はグループに分かれて、意見交換・情報交換を行った。終了後に自由に話しあっている様子は前年同様であり、対面での交流が効果的であると改めて感じた。

スタート集会：2023年5月14日（日）10：00～12：00 参加者26名

オリエンテーション：2023年4月20日（木）10：00～11：00 参加者11名

iii 講座

「こんな活動があれば暮らしやすいのに」「困っている人をみんなで支えたい」「自分や仲間の力を地域で活かしたい」など、活動への関心を寄せている方々を対象に、社会の現状と課題や活動への取り組み方法などについて考える場として開催した。2023年度は前年度に加えて、活動を継続していくためにどのようなすればいいかといった内容の講座を実施した。この回では自団体の振り返りにもつながり、講話終了後の質疑応答で具体的なことへの質問が多かった。悩みについては個別性は高いが共通点も見られ、丁寧な対応が必要であることも分かった。参加者はそれほど多くはなかったが、全体的には前年度よりは増加してきており、早めの広報にこれからも努めていきたい。

第1講：「活動の始め方」

2023年9月16日（土）草津市立市民総合交流センター 参加4名

2023年9月20日（水） 参加13名

第2講：「活動資金のいろいろ」

2023年9月30日（土）プロシードアリーナ HIKONE 参加3名

2023年10月4日（水） 参加13名

第3講：「他団体の活動を知って 参考にしましょう」

2023年10月14日（土）コープしが本部 参加7名

ゲスト：NORA（ノーラ） 2019～2021年度できるコトづくり制度活動助成

楽楽ひろば 2020～2021年度できるコトづくり制度はじめて助成

第4講：「活動継続のために知っておきたいこと」

2023年10月18日（水）草津市立市民総合交流センター 参加7名

第5講：「活動計画書・予算書づくり」

2023年10月21日（土）コープしが本部 参加5名

2023年10月25日（水）草津市立市民総合交流センター 参加8名

それぞれの回でのアンケートで「自分たちが進めてきた事が良い方向だと確信が持てた」「収入には様々な方法があり、そのバランスが大切だということがわかった」「漠然と考えていただけでは実現しないので、もっと細かく計画していきたい」などの感想が寄せられた。

iii 活動訪問

採択された団体を訪問し、活動について取材を行った。それをまとめ、専用ホームページサイトに掲載した。

iv 説明会・相談会

応募を考えている団体を対象に、募集要項作成後に説明会を実施した。説明会終了後の相談会では応募にかかる質問や相談に応じた。会場での開催と、日時を指定してその中から自由に選べるオンラインによる相談を行った。

会場開催

第1回：2023年11月15日（水）草津市立市民交流プラザ 説明会：5名 相談会：5名

第2回：2023年11月26日（月）G-NETしが 説明会：5名 相談会：

オンライン相談

第1回：2023年11月24日（金）10時～17時 参加2名

第2回：2023年11月27日（月）18時～20時 参加2名

第3回：2023年12月4日（月）19時～20時 参加3名

個別相談対応

新規に応募したい団体・個人からの相談 10件

現在助成を受けている団体からの相談 2件

v 専用ホームページサイトの運営

団体訪問の取材記事、講座や助成金情報を掲載して広報を行った。実際に活動の場を訪問することで、計画書だけではわからない内容や団体の様子を垣間見ることができ、今後の総団体などに活かせることが多い。

vi 2024年度助成にかかる準備

2022年度活動の対象となる応募から審査について、2023年度内に準備を進めた。ivの説明会・相談会も、その一環である。

具体的には申込みガイド（募集要項）作成、説明会・相談会、応募受付事務、プレゼンテーション・審査会の運営、ホームページへの情報掲載などである。

審査会は、2024年2月18日（日）に開催した。

応募団体数・採択団体数は次の通り（団体数は「応募」「採択」の順で記載）

はじめて助成1年目 11団体・5団体、はじめて助成2年目 5団体・5団体

活動助成1年目 11団体・5団体、活動助成2年目 3団体・3団体、

活動助成3年目 3団体・3団体

③大和リース まちづくりスポット大津

大和リース（株）は、商業施設を建設・運営する「ブランチ大津京」内に全国で「まちづくりスポット」を展開している。滋賀県では、NPO 法人まちづくりスポット大津が大和リースの支援を受けて運営しており、しがNPO センターは2023 年度も引き続きアドバイザーという立場で活動を行った。NPO 法人まちづくりスポット大津の組織が確立されているので、しがNPO センターが培ってきた専門的な知見・スキルを提供する立ち位置とし、スタッフが「今やっていること」の意味や価値に気づくようなアドバイスを心がけた。

まちづくりスポット大津への支援内容は主に次のとおりである。

- ・「わかばサロン」における相談対応
- ・事業の企画アドバイス、進捗管理、および実施時の支援
- ・まちスポが主催する講座・ワークショップなどでの講話や助言
 - 『地域コミュニティと地域自治組織』 講師：仲野優子 6月28日
 - 『決まらない会議から抜け出そう』 講師：西川実佐子 10月16日
- ・経理・労務などに対する支援
- ・「夏原グラント」業務移行支援
- ・多忙時におけるハッシュタグ運営の人員サポート など
- ・大和リースとの定例会議への参加

(3) 役員・職員が関わる委員会等

しがNPO センターとして組織的に取り組んでいるものではないが、役員や職員が行政・団体の委員会の委員等に次のとおり出席・出講した。

- ・栗東市協働事業提案審査委員会 委員長・委員 開催2回
- ・守山市市民提案型まちづくり支援事業審査委員会 委員 開催1回
- ・事業指定寄付制度にじまちサポーターズ（まちづくりネット東近江） 委員 開催2回
- ・「栗東市元気創造まちづくり事業」サポート講座 ワークショップ講師 開催1回
- ・公益財団法人滋賀県市町村振興協会懇話会 委員 開催2回
- ・草津市景観審議会 委員 開催1回
- ・栗東市市民参画等推進委員会 委員 開催2回
- ・長浜市市民協働推進会議 副委員長 開催2回
- ・彦根市福祉保健部・子ども未来部指定管理者候補者選定委員会 委員 開催2回
- ・長浜市市民協働推進会議 委員長・副委員長 開催 開催2回
- ・東近江市わくわく市民活動支援補助金審査会 委員 1回
- ・長浜市市民活動団体支援事業審査会 委員 1回
- ・東近江市生活支援体制整備事業委員会 委員 2回
- ・レイカディア大学基礎講座 講師 2回

(1) コラム発信

2013年6月より、NPOを取り巻く環境や課題、また時々の社会的な問題などについて、HPサイトでコラムとして発信している。2023年度は1か月に1回、計12回リリースした。

2023年4月 政党と地方政治の関係性

5月 統一地方選が終わって～杉並からの風を感じて

6月 G7サミットは何のため

7月 異次元の少子化対策？

8月 アソシエーション

9月 福島第一原発処理水の放出は本当に妥当か

10月 孤独・孤立対策

11月 パレスチナとウクライナ

12月 フリースクールへの支援は憲法違反？

2024年1月 政治は信頼を取り戻せるか

2月 能登地震への対応

3月 政治不信を脱却するための最後の手段？

(2) 孤独・孤立対策への取組み

孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査業務・関西ユニットの実施

内閣官房孤独・孤立対策担当室が所管するモデル事業に、社会福祉法人大阪ボランティア協会を代表団体として、NPO法人しがNPOセンター、NPO法人きょうとNPOセンター、公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団、公益財団法人ひょうごコミュニティ財団、NPO法人わかやまNPOセンターの6団体のコンソーシアムで応募し採択された。

しがNPOセンターは、「必要とされているにも関わらず、絶対数が少ないフリースクール」の開設を支援することにより、「孤立状態にある不登校児童生徒とその家族を支える」チャレンジを支援モデルとする。NPO法人くさつ未来プロジェクトへの伴走支援を通じて、フリースクールの支援モデルを構築した。

- ・滋賀モデル構築委員会 5回開催
- ・山元圭太さんをアドバイザーとして必要なアドバイスを受けた。
- ・全体として支援モデル検証委員会 9回開催

5 災害ボランティアコーディネーター事業

(1) 「災害支援市民ネットワークしが」の運営

① 「災害支援市民ネットワークしが」

2013年度に、滋賀における市民の災害対応力を高め、行政や社会福祉協議会等と連携しながら、災害発生時のボランティア派遣、ボランティアセンター運営支援、ボランティアコーディネーター等の災害支援活動、平時における防災活動の啓発などを行うことを目的に構築されたネットワークである。災害時に互いに声を掛け合うことができる関係を築くことも大きな目的である。県内外での災害時に災害ボランティアセンター運営支援やコーディネーター、独自の情報発信などができることを目指し、しがNPOセンターが事務局を担っている。

2023年度は10年継続してきた中で、今後の運営について再考する機会もあった。このネットワークに加入する意義がある団体への声掛けや、近年の気候変動による災害の多発や地震発生の可能性が高まる中、よりネットワークを広げていく必要がある。

研究会・セミナー等へは会員外にも声をかけるオープンな形態としている。2023年度会員は、団体会員：18団体、個人会員：67人であった。

総会日時 2023年6月30日（月）13：30～14：00

開催場所 草津市立市民交流プラザ 中会議室 参加者：12名

総会終了後に第1回研究会を開催した。

②研究会

災害支援市民ネットワークしがが主催する研究会として、テーマを設定し開催している。2022年度は、今までに取り組んでいない切り口をテーマとして取り上げた。講師の話は具体的な内容で、貴重な情報もあり、参加者の満足度は高かった。

i 第1回：2023年6月30日（金）15：00～17：00 参加者：37名

「南海トラフ地震にどう備える？」

講義：河田慈人さん（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科特任教授・人と防災未来センターリサーチフェロー）

南海トラフ地震では滋賀県は震度6強の揺れが予想され何らかの被害があるだろう。断層が多いし、特に琵琶湖や田んぼの埋め立てが多いので液状化のリスクは高い。広域避難として他府県と一緒に訓練するのが有効で、互いに助け合う関係は大事である。

災害時には「正常性バイアス」が働き、避難が進まないことがある。ハザードマップは安全マップではないという認識が必要で、自分たちでも科学的・合理的に考えられる最大のシミュレーションをしておくとうまく助かる可能性が高まる。災害時での自助・共助・公助の比率は一般的に7:2:1と言われているが、1:100:1と言う先生もいる。地域防災計画は住民が主体となるので100点満点のものではなく、むしろ40点くらいのもを更新していく方が効果的で、状況に応じていろいろな人の力を借り振っていくことが大事である。

第2回：2023年9月1日（金）13：30～16：30 参加者：22名

「災害におけるつながりが生み出すイノベーション」

講義&ワーク 講師：菅野 拓さん（大阪公立大学大学院准教授）

災害発生時のマニュアル等は整ってきているが、大規模災害時には「やっかいな問題」が起きるとのこと。立てた計画へ依存しすぎることや、制度が硬直化して杓子定規に用いられることなど、予測できない事態に対処する柔軟性を欠くことが厳しさを増幅させている。そのような中、サードセクター（市民活動やNPO）で活動する人が新しい方法で政策につなげつつ、現場で個別支援も行っていることに気づき、社会ネットワークの構造を調べるために、災害支援時にリーダーとなった人を数珠つなぎしていく調査を行った。多くの人から名前があがる人は、あらゆるセクターと接しているの、いろいろな状況をそれぞれの言葉に翻訳してつなぐことができ、平時から連携できている人だということがわかった。後半のワークでは、ネットワークやハブが生み出すための方策についてグループで話し合った。

第3回：2023年10月30日（月）14：00～16：30 参加者：14名

「災害支援における学生の役割」

講師：赤澤清孝さん（大谷大学准教授）

学生ボランティアの動きはフェーズによって異なる。発災直後は自分の置かれた場所で行えること、例えば募金、情報の収集・発信、地元の支援団体への協力などを行う。復旧段階に入ると体力と時間のある若者の直接的支援が求められ、泥かき、がれきの撤去、炊き出し、子どもの遊び相手などの活動に参加する。被災地からの助かったという声が直接聞けて学生のやる気が引き出される時期。次のフェーズでは被災者の自立に向けた支援が求められ、被災者に寄り添いながら住民同士の交流の場づくり、また商品開発や販路開拓などに展開していく場合もある。活動その後として、被災地支援からそのまま当事者として残り合同会社を立ち上げて空き家問題の解決に取り組んだケース、地元の人と一緒に一般社団法人を立ち上げ移住したケース、NPO法人を立ち上げ、地域で活躍する活動人口を増やすまちづくりひとづくりに取り組んでるケースなどがある。

第4回目：2023年12月15日（金）13：30～16：30 参加者：34名

「災害支援で活かす地域の連携と協働」

講師：石井布紀子さん（NPO法人さくらネット 代表理事）

災害ボラセンは中越地震時に本格化し、そこから官民協働が始まった。社会的弱者の困り事は表にはでてきていなかったが、だんだんと生活復旧期の支援が大切だとわかり、「誰1人取り残されない防災」「互助・共助・公助」などという言葉がでてきた。平時から積み重ねられている複合化したニーズに対応した支援体制が求められている。災害ケースマネジメントの条例化は滋賀県ではまだできていないが、最近はサテライトの設置が多く、その機動性を活かすことが有効だとわかってきた。組織図などを作り必要な資源（人や物）を書き込むと連携協働が進みやすく、サテライトの可能性が広がる。連携による社会資源の確保では、初動期にしっかり社会資源を集めることが大事で、ポイントを絞り、エリアごとに具体的に考えていく必要がある。

(2) 近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度

①災害支援市民ネットワークしが研究会（再掲）

5-(1)-②の研究会のうち、i-第1回研究会、ii-第2回研究会、iii-第3回研究会、iv-第4回研究会を、近畿ろうきんパートナーシップ制度の枠組みで実施した。

近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度

近畿ろうきんが 2000 年度から始めた近畿 2 府 4 県内での NPO・ボランティア活動を促すための制度。

2011 年度からは東北地方を中心とした被災地での復興支援活動に力を入れていたものの、年月が経過する中現地支援からは軸足が遠のいていた。しかしながら 2016 年 4 月に発生した熊本地震を機に、現地支援の必要性から再度復興支援活動に取り組むこととなった。2018 年度からは SDGs に関わり「誰もおいてきぼりにせえへん」をテーマに掲げて事業を進めている。

②共通企画

近畿 2 府 4 県の NPO 支援センターと近畿ろうきんが共同で事業に取り組むもの。2023 年度は近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度では「阪神地域住民と NPO が協働した真理づくりについて」をテーマに、講演とパートナーシップ構成団体の 1 年を振り返りつつ講演のテーマに沿った話題提供、登壇者によるクロストークが行われた。2023 年度は兵庫県の NPO 法人シンフォニーが当番で、会場とオンライン併用で実施された

NPO パートナーシップ制度セミナー「市民活動の役割～人が人を支えるつながりづくり～を考える」

2024 年 2 月 10 日（土）13:00～16:00

i 基調講演

『「市民自治のまちづくり」を築いた阪神間からの NPO 協働による地域づくりの“新しいカタチ”について考える』

矢下幸司さん 日本経済大学経済学部准教授

ii NPO パートナーシップ制度活動報告

向井直文さん きょうと NPO センター

山村弘美さん コミュニティ・サポートセンター神戸

iii クロストーク

「これからの地域における街づくり・居場所づくり」

登壇者：矢下幸司さん

きょうと NPO センター、コミュニティ・サポートセンター神戸

参加者：48 名

(3) 滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会

①災害ボランティアセンター運営協議会

9 月 12 日（火）に運営協議会、訓練に関して、滋賀県社会福祉協議会と打ち合わせを行った。

②災害ボランティアセンター機動運営訓練

災害支援市民ネットワークしがが担うべき役割を再確認するとともに、それに伴った訓練を災害ボランティアセンター内で独自に行った。

日時：2023 年 10 月 15 日（日）8:30～11:00

場所：滋賀県危機管理センター

③えにしの日特別企画 能登半島地震にかかるしが DWAT 活動報告会

（滋賀県災害時要配慮者支援ネットワーク会議 令和 5 年度第 2 回全体会議）

能登半島地震におけるしが DWAT の活動報告会に参加した。

日時：2024年3月11日（月）10:00～12:30

場所：滋賀県立県民交流センター大会議室

6 ネットワークの構築

(1) 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度

「近畿圏 NPO 支援センター連絡会議」に出席

2023 年 5 月 26 日（金）地域共生拠点あすパーク

2023 年 8 月 31 日（金）京都市市民活動総合センター

2023 年 11 月 27 日（月）シンフォニー

2024 年 3 月 6 日（水）近畿ろうきん肥後橋ビル

(2) 日本 NPO センター CEO 会議

2023 年 4 月 17 日（月）、18 日（火） 広島開催

2024 年 1 月 29 日（月）、30 日（火） 東京開催

※1 月の会議では、東近江市長の発言を機に注目されたフリースクール支援に関して、滋賀県知事が憲法第 89 条問題を出したことを受けて、話題提供した。

(3) 中間支援センター意見交換会

県内の中間支援団体で組織する意見交換会に参加した。

今年度の世話役は、大津市市民活動センター・たかしま市民協働センター・まちづくりスポット大津

① 2023 年 6 月 20 日（火）

テーマ：相談状況の集計表に基づいて意見交換

市町のセンターと行政、地縁組織、まち協、社協等、他団体との連携、サポート体制について
情報共有

各センターの情報交換

参加：幡

② 2023 年 10 月 17 日（火） 会場：今津東コミュニティセンター

テーマ：非営利組織の比較について特性や違いを確認。

県民活動生活課からの説明

各センターの情報交換

出席：幡

③ 2024 年 2 月 16 日（金）

テーマ：相談事例をもとにグループワークで考える

場所：まちづくりスポット大津シェアスペース

アドバイザー：永井美佳さん（大阪ボランティア協会常務理事、事務局長）

各センターの情報交換

出席：西川、幡

7 会議等の開催

(1) 総会

2023年5月27日(土) 13:30~14:00 コラボしが21

会場とオンライン併用で実施してきたが、2023年度は会場でのみの開催とした。

参加9名

(2) 理事会

第50回 2023年5月18日(木)

第51回 2023年7月1日(土)

第52回 2023年9月12日(火)

第53回 2024年2月19日(火)

第54回 2024年3月27日(水)